

主体的に学びに向かう生徒の育成 ～学習者主体の授業を通して～

南さつま市立金峰学園

教 諭 鮫 島 貴 子

1	研究テーマ	2
2	研究テーマ設定の理由	2
(1)	今日的教育課題から	2
(2)	本校の教育目標から	2
(3)	生徒の実態から	2
3	研究の仮設	3
4	研究の構想	3
5	研究の実際	3
(1)	学習者それぞれの興味・関心や学習進度に応じた授業	3
ア	言語活動の工夫	3
イ	資質・能力の共有	5
(2)	学習者が解決の方法を自分なりに選択・判断し行っていく授業	7
ア	1単位時間の決定	7
イ	I C Tの活用	8
ウ	家庭学習M G C	8
(3)	学習者が自分の学びを振り返り、次に生かしていこうとする授業	9
ア	ループリックの活用	9
イ	単元シートの活用	9
6	研究の成果と課題	10
(1)	成果	10
(2)	課題	10
7	おわりに	10

【引用・参考文献】

- 『中学校学習指導要領解説国語編』2018年 文部科学省
- 『指導資料国語第152号「学びに向かう力」の涵養を強く意識した中学校国語科の授業づくり』
令和3年4月 鹿児島県総合教育センター
- 『「学習者主体の授業」の提案』2023年 鹿児島県教育委員会
- 『学びの羅針盤』令和7年3月 鹿児島県教育委員会
- 『教師のための「非認知能力」の育て方』2023年 明治図書出版
- 『自ら学びをコントロールする力を育む自己調整学習』2024年 明治図書出版

1 研究テーマ

主体的に学びに向かう生徒の育成 ～学習者主体の授業を通して～

2 研究テーマ設定の理由

(1) 今日的教育課題から

デジタル化、グローバル化、社会構造の変化など激しい変化と、予測不能を特徴とする社会において、生徒は自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、未来を切り拓く力が求められる。そのような現状においては、まず、知識の暗記よりも、情報を活用して自ら問題を発見・解決する探究心が重要になる。さらに、多様な背景をもつ他者と協力し、新たな価値を生み出す力も求められる。協働する中では、対話を通じて合意形成を図るコミュニケーション能力とチームワークが鍵になる。一方、変化の激しい社会では、失敗や挫折も多くなる。自己肯定感をもち、困難な状況でも諦めずに立ち向かい、しなやかに回復するレジリエンスも求められる。学校での学びは、変化の激しい次世代社会を生き抜く力を生徒に育む重要な役割を担っている。まず、学習者主体の授業を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必須である。この授業改善に向けては、主体的に学びに向かう生徒の育成が急務である。学びの主体は未来を生きていく生徒であるということを再確認し、授業改善を進める必要があると考え、上記テーマを設定し、実践を行うことにした。

(2) 本校の教育目標から

本校では「ふるさと金峰を愛し、自ら学び、心豊かでたくましい未来を切り拓く子供の育成」を学校教育目標に掲げ、日々の教育実践に取り組んでいる。また、校内研修においても『「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還する授業デザインの創造～自己肯定感を高める授業の実践』のテーマのもと、生徒の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、生徒一人一人の課題を乗り越えるためにICT機器を活用した手立てを行うことにより主体的・対話的で深い学びを充実させることに取り組んでいる。研修や授業を充実させていく中で、生徒が生き生きと学びを進めることができない場面が多くある。これらを踏まえ、設定した研究テーマを実践に取り組むことは教育目標の具現化につながるものと考えている。

(3) 生徒の実態から

今年度は、7年生を新たに、また前年度に引き続き8年生を担当することになり、生徒の実態を把握するため、年度当初にアンケートを実施した(「あてはまる」のみ記載 単位%)。

質問項目	本校 7年	本校 8年	R7 全国学調 中3
自分にはよいところがありますか。【自己肯定感】	29.2	38.2	40.8
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。【自己調整力】	21.3	28.7	27.5
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。【自己調整力】	21.3	21.6	23.1
授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。【主体的な学び】	20.8	23.3	23.5
学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。【主体的な学び】	34.9	32.9	35.1
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。【協働的な学び】	44.4	47.5	45.6

質問の結果から、生徒の実態に応じた単元の言語活動の工夫や見通しをもたせて、学習を調整できる場の設定を目指すことを重視した授業づくりを行うことが必要であると考え、テーマを設定した。

3 研究の仮説

学習者主体の授業を展開し、生徒が自らの学習を調整するような手立てを工夫することで、生徒の学習意欲は向上するであろう。

4 研究の構想



5 研究の実際

(1) 学習者それぞれの興味・関心や学習進度に応じた授業

ア 言語活動の工夫

学びに向かおうとする力には、生徒が課題を受け止め、自ら進んで前向きに取り組んでいくことが欠かせない。しかし、年度当初の授業において、さまざまな課題に取り組みせると、生徒の「分からない。もういい。」「あきらめた。」といった諦めの発言や、考えることを全くせず「教えてください。」といった解答を請う発言が多かった。課題に取り組む必要性を意識させることができず、生徒に学びへの興味・関心をもたせることができていなかったためである。また、読み物教材単体では、学ぶことの動機付けが一時的で外発的なものに留まってしまい、「読んで何がわかるんですか。」「将来こんな文章書く必要ないですよ。」と否定的に取り組んでしまう生徒も少なくなかった。生徒が教材一つ一つに対して、常に肯定的に取り組むことができる持続的な学習の動機付けができないかと考え言語活動を工夫した。

まず、単元の導入で、その単元の目標として設定する言語活動に類似する課題を生徒に提示し、メタ認知できるようにした。8年生「ものの見方・感性を養う」の単元では、「おすすめ本の紹介文を書こう」を課題として提示した。課題を告げても取り組むことができない生徒が多数いた。取り組めた生徒もいたが、内容が乏しかったり、感想が抽象的だったりした。(図1)そこで、「ものの見方・感性を養う」の単元の言語活動の目標のゴール文(図2)を見せると「すごい」、「こんなふうに行けばいいの」などの声があり、「できるようにになりたい」、「できるように何をしなければならぬのか」など、課題を自分事として捉えられるようになった。

「友情って大切だな」という一般的な感想で終わっていて、自分自身がどう考えたのか、自分どう結び付けたかが見えにくい。

抽象的な言葉ばかりで具体的な描写や感動の瞬間が伝わらない。

この本のテーマは友情だと思います。なぜなら、主人公と仲間たちがずっと一緒にいるからです。友情って大切だなと思いました。本の中で、仲間を助けるために危険な場所に行くシーンがありますが、その行動が感動的でした。私にもこんな良い友達がいたらいいのに、と思いました。

この本は、本当におもしろいです。読んでいてワクワクします。主人公が頑張っているのを見て、私も頑張ろうと思いました。物語の展開がすごかったし、キャラクターもみんな魅力的でした。特に、敵が強くなっていくところはドキドキしました。読んで損はないと思います。この本のおかげで、私も勇気をもらえました。

【図1 単元の導入】

この味がいいねと君が言ったから7月6日はサラダ記念日
依万智

「この味がいいねと君が言ったから」
この上の句は、相手の言葉をそのまま引用することで、その響きを持つ温かさやみずみずしさを伝えます。特別なことのない日常の食事風景が、愛しい人の一言によって、一瞬にしてかけがえのない時間へと変わります。それは、日々の生活の中に隠された小さな喜びを発見する感動を、私たちに教えてくれます。
「7月6日はサラダ記念日」
そして、この下の句では、その特別な瞬間に名前を与え、この行は、愛する人との日々を大切にしたいという純粋な想いを表現していると同時に、私たち自身のささやかな「記念日」を思い起こさせます。
この短歌が心を打つのは、誰もが経験する小さな幸せや、愛する人との一瞬を、これほどまでにみずみずしく、そして力強く表現しているからです。短歌という形式の可能性を最大限に引き出し、現代に生きる私たちの心に深く響く傑作として、ここに推薦します。

身に付けた力
文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり、深めたりすること。
【C読むことオ】
根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。
【B書くことウ】

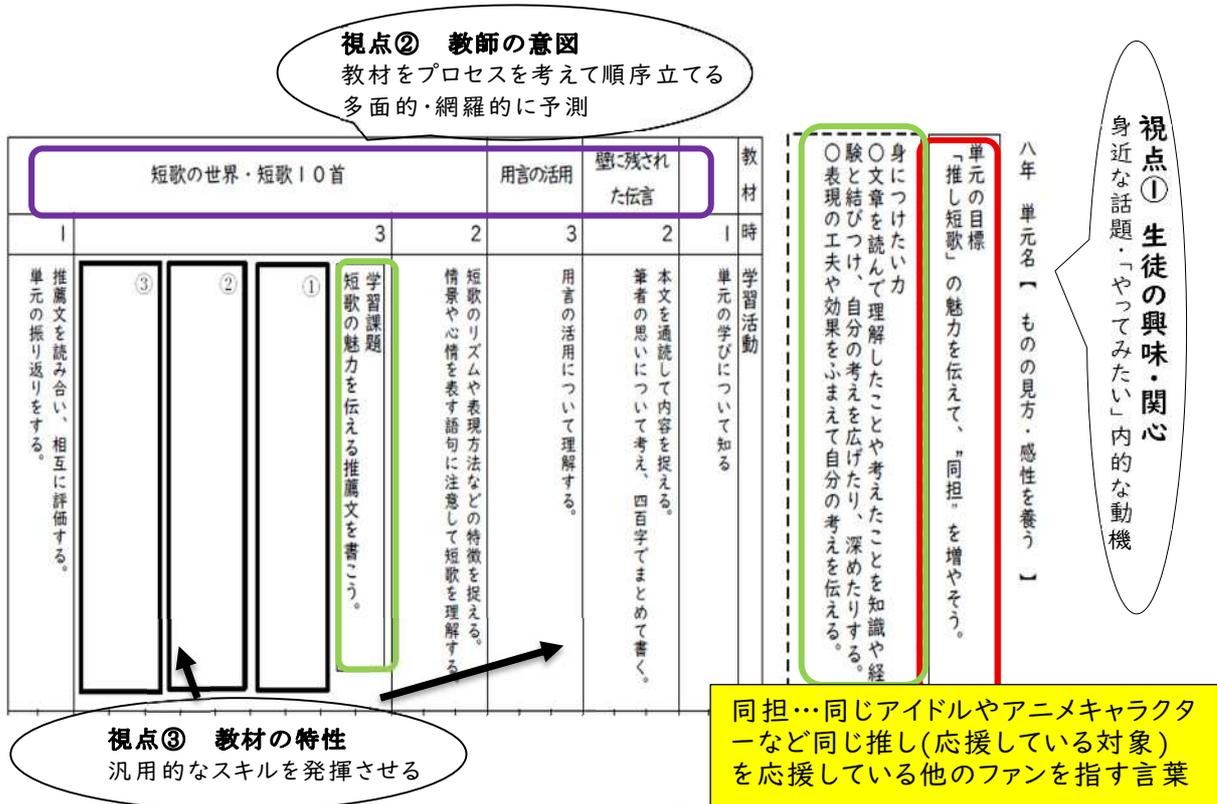
【図2 モデル文】

また、言語活動を設定するにあたっては、以下の3点の視点を取り入れた。

- 生徒の興味・関心
生徒の実態や興味・関心を出発点とし、粘り強く問題の解決に取り組むことができるか。
- 教師の意図
生徒が主体的に進める活動の展開において、意図した学習が効果的に生み出されるか。
- 教材の特性
身に付けた資質・能力が発揮でき、一体的に育成できたことを確認できるか。

8年生の「ものの見方・感性を養う」の単元では、目指す資質・能力が十分に生かされるような書く活動を言語活動とした。生徒からよく聞いていた「同担」という言葉をキーワードにして単元の目標を設定し、内的動機付けに繋げた。

また、教科書では、短歌、文法、報告文の順に教材が並べられていたが、自身の取材活動を通して、科学的な根拠を踏まえながら解き明かした報告文を読み、説明された事柄を理解し、平和を希求する筆者の思いを捉え、自分の考えをもたせる学習活動を行った。その後、文法を学習して言葉のもつ価値を再認識してから、言語活動に取り組めば主体的な活動が効果的に繋がっていくと考え順序立てを行った。(図3)

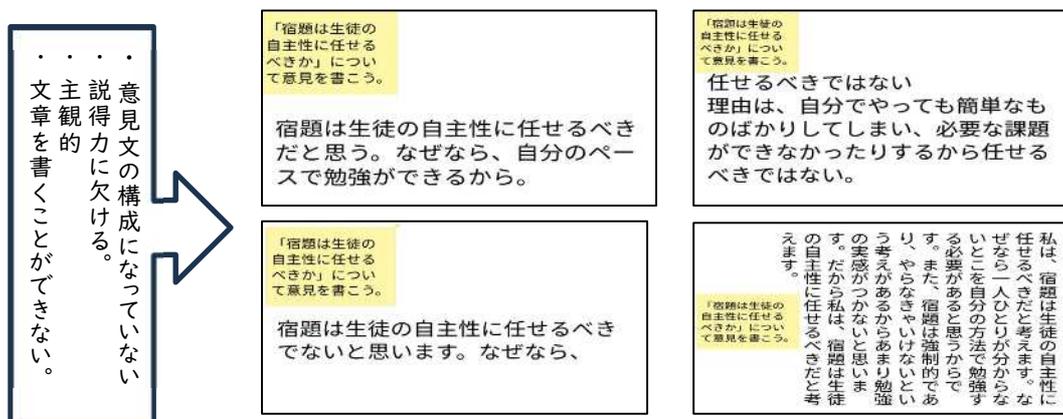


【図3 言語活動】

単元の目標を生徒に提示したときには、「先生、推し活しているんですか。」など目標に関することに興味をもった生徒からの発言があった。さらには授業外でも、「同担増やすために頑張ります」の声もあった。「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」の目的意識をもって学習に取り組めるように、学びに見通しをもたせた。

イ 資質・能力の共有

単元の導入では、必ず個別の知識を学びながら、新たな知識を既得の知識及び技能と関連付け、汎用できる力を身に付けることを目標としていることを生徒に実感させる手立てを行った。8年生の「情報に関連づける」では単元の言語活動を『「中学生にスマホは必要か」意見を表明する文を書く』ことと設定した。そこで、まず生徒に別のテーマ「宿題は生徒の自主性に任せるべきか」で意見文を書かせて、意見文を書くにあたっての自分の思考を把握し、現状を認識させた。(図4)



【図4 導入の言語活動のメタ認知】

書き終えた後、モデル文と比較し、自分の書いたものと比較しながら身に付けたい力を生徒自身に考えさせた。そして、この単元で求められる資質・能力を共有した。(図5) その際、単元間の関連性や学びの系統性も明示して、学びの繋がりも意識させた。(図6)

引用

「宿題は生徒の自主性に任せるべきか」
宿題は、生徒の自主性に任せるのではなく、強制的に課すべきだと私は考えます。なぜなら、授業で学んだ内容を確実に定着させるためには、家庭での復習が不可欠だからです。文部科学省の学習状況調査によると、毎日宿題をする生徒は、そうでない生徒に比べて定期テストの平均点が約15%高いというデータがあります。この事実は、宿題が単なる作業ではなく、学力向上に直結する重要な学習活動であることを明確に示しています。もちろん、「自主性を育むためには、生徒自身に学習の計画を立てさせるべきだ」という反論もあるでしょう。しかし、心理学者のアンダーズ・エリクソン氏も、著書の中で「最高の能力を身につけるには、目的をもって反復練習に取り組む『意図的な練習』が不可欠である」と述べています。中学生の段階では、まだ自律的に学習を進めるのが難しい生徒も少なくありません。まずは強制的に宿題を課すことで、この反復練習の習慣を確立させることが重要なのです。真の自主学習は、こうした基礎的な習慣の土台の上に初めて成り立つものだと考えます。

◎事実に理由づけする

理由づけ
「いらっしゃいますか」というように聞くから

事実
五郎のドアは、夜家で内側が開く

理由づけ
外側からの侵入を防ぎやすいから

事実
五郎のドアは、夜家で内側が開く

同じ事実

相手の反論を考慮して

「宿題は生徒の自主性に任せるべきか」
宿題は、生徒の自主性に任せるのではなく、強制的に課すべきだと私は考えます。なぜなら、授業で学んだ内容を確実に定着させるためには、家庭での復習が不可欠だからです。文部科学省の学習状況調査によると、毎日宿題をする生徒は、そうでない生徒に比べて定期テストの平均点が約15%高いというデータがあります。この事実は、宿題が単なる作業ではなく、学力向上に直結する重要な学習活動であることを明確に示しています。もちろん、「自主性を育むためには、生徒自身に学習の計画を立てさせるべきだ」という反論もあるでしょう。しかし、心理学者のアンダーズ・エリクソン氏も、著書の中で「最高の能力を身につけるには、目的をもって反復練習に取り組む『意図的な練習』が不可欠である」と述べています。中学生の段階では、まだ自律的に学習を進めるのが難しい生徒も少なくありません。まずは強制的に宿題を課すことで、この反復練習の習慣を確立させることが重要なのです。真の自主学習は、こうした基礎的な習慣の土台の上に初めて成り立つものだと考えます。

構成
頭括型 双括型 尾括型

引用

反論

客観的データ

富士山の標高は3776mだ
富士山は美しい

生徒自身でのモデル文分析

学級全体での共有

【図5 生徒の文とモデル文比較分析】

7年
根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること

意見

「宿題は生徒の自主性に任せるべきか」
宿題は、生徒の自主性に任せるのではなく、強制的に課すべきだと私は考えます。なぜなら、授業で学んだ内容を確実に定着させるためには、家庭での復習が不可欠だからです。文部科学省の学習状況調査によると、毎日宿題をする生徒は、そうでない生徒に比べて定期テストの平均点が約15%高いというデータがあります。この事実は、宿題が単なる作業ではなく、学力向上に直結する重要な学習活動であることを明確に示しています。もちろん、「自主性を育むためには、生徒自身に学習の計画を立てさせるべきだ」という反論もあるでしょう。しかし、心理学者のアンダーズ・エリクソン氏も、著書の中で「最高の能力を身につけるには、目的をもって反復練習に取り組む『意図的な練習』が不可欠である」と述べています。中学生の段階では、まだ自律的に学習を進めるのが難しい生徒も少なくありません。まずは強制的に宿題を課すことで、この反復練習の習慣を確立させることが重要なのです。真の自主学習は、こうした基礎的な習慣の土台の上に初めて成り立つものだと考えます。

反論

8年
根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えたりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

客観的データ

引用

7年生から8年生でできなければならないことが何なのか、学びの系統性をしっかり確認

【言葉の特徴や使い方】【情報の扱い方】【言語文化】												
										文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示の関係などを捉える。	ア	構造と内容の把握
										文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉える。	ア	
										目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈する。	イ	精査・解釈
										登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈する。	イ	
										文章と図表などを結びつけ、その関係をふまえて内容を解釈する。	ウ	
										観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える。	エ	考えの形成共有
										文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりする。	オ	
小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう	小説 考えごと を伝えよう

単元間の領域内での関連性を視覚化させて確認

【図6 単元間の関連性や学びの系統性】

(2) 学習者が解決の方法を自分なりに選択・判断し行っていく授業

ア 1 単位時間の自己決定

どのように学ぶかを自分で考え、最適な方法を選び、工夫することができていなかったために、授業中、教師の指示を待っているだけの状況があったり、協働的な学びを推進しようとしても、表面的な話し合い活動にとどまり、ただの意見交換だけだったりする授業をこれまで展開することが多かった。生徒自身が学習を進めていく学

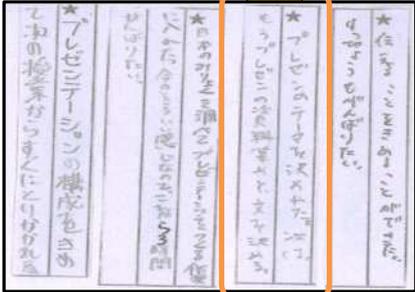
プレゼンテーション				物語の意 味と種類	味は味だけ はわからない	教材	1 時	単元名「論理的に考える」 八年 単元名「論理的に考える」
1	4	1	3	1	3	1	1	単元の目標 日本代表として私たちの誇る日本の素晴らしさを海外の方 にPRしよう。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 単元の中には生徒自 身が1単位時間の目 標を決めて学習活動 を取り入れる。 </div>				当単元課題 海外の人に資料や機器を用いて日本を紹介 しよう。	敬語のはたらきについて理解する。	単元の学びについて知る 単元の学びについて知る	身に付けた力 ○文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験 と結びつけ、自分の考えを広げたり、深めたりする。 ○相手や目的に応じた伝え方を工夫する。	

【図7 単元内の自己決定】

びができるように、生徒自ら自分自身に合った効果的な学習方法を見付け、選べる経験を積み上げることでできる学びを単元の中で必ず取り入れた。(図7)

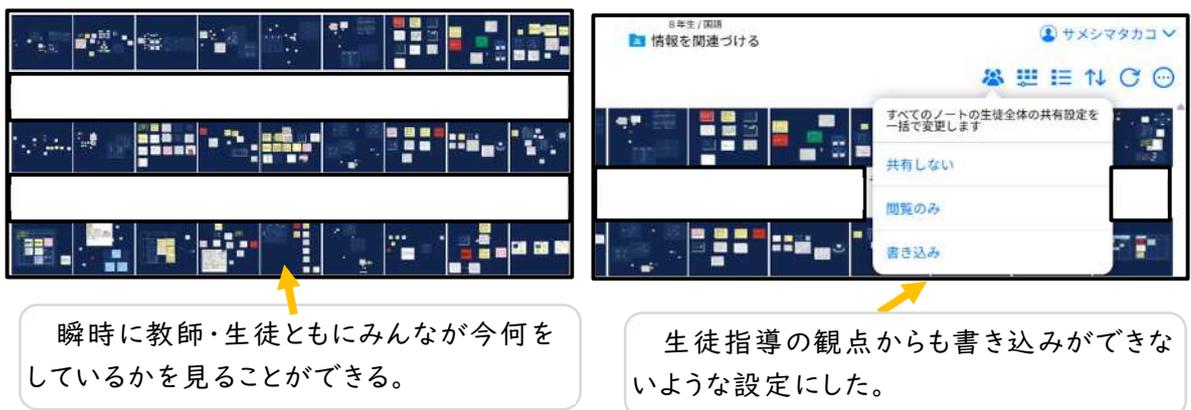
また、授業中の働き掛けも「今のやり方はどう」、「進みは順調」、「他にはどんな進め方がありそう」など生徒が主体となり、自ら進めていこう、工夫してみようと思えるようなファシリテーター的役割として関わった。自分に適した学習方法を自ら調整して、個別の学びを深め、話し合い活動では自分の考えを強固にしたり、深めたり、構造化したりできるようにすることを目標に、単元の言語活動の学習の時間では、各自の学習目標を立てさせ、生徒の特性に応じて、学習の個性化をイメージし、ICTを使用するか、ヒントカード等を使用するか、情報や処理方法を可視化するかどうか、操作化するかどうかなど、学習スタイルを選択、判断できるような授業展開にした。

過程	学習内容・活動	実際の様子・指導の留意点
導入	1 各自で本時の学習の見通しを決めて前時の内容を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。 2 本時の学習目標を決定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【学習課題】 海外の人に資料や機器を用いて日本を紹介しよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を想起させ、自分自身の理解度を振り返らせ、自分事として目標を設定させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> </div>
展開	3 自分で設定した目標に向かって各自で活動する。 <ul style="list-style-type: none"> 「道具・活動」の自己選択・決定 「学習形態・スタイル」の自己選択、決定 「学習時間・ペース」の自己選択、決定 「解決方法・考え方」の自己選択、決定 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自ら学びを進めていけるように、課題解決に必要なコンテンツをロイロノート資料箱に用意しておく。 進捗状況を観察し、ファシリテートする。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-weight: bold; padding-right: 5px;">生徒タブレット画面</div>  </div>

終末	<p>4 本時を振り返り，次時の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し，集約した振り返りを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の本時をじっくり振り返り，次に生かす。 
----	---	---

イ ICTの活用

自分に合った学びを自分でデザインするための道具としてICTを活用した。生徒にとっては友達の意見をリアルタイムで視覚化し，多角的な視点で学びを深めるため，教師にとっては思考が止まっている生徒にアドバイスをする生徒一人一人の思考の深まりをリアルタイムで把握するためにICTを活用した。ロイロノートで生徒ごとの共有ノートを使用し，教師も生徒も，どの時間でも学級すべての学習の進捗状況を確認することができた。ワークシート等を使用する生徒にも，カメラで写したカードを必ず共有ノートに保存するよう指導した。この共有ノートについては，事前にノートを見られたくない生徒がいるか確認をとって使用した。協働的な学びを深めようとするとき，同じ友達としか話し合い活動を選択しないという実情がこれまではあったが，たくさんの人の考えを知るツールとして効果的に活用した。(図8)

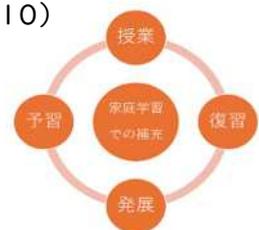


【図8 ロイロ共有ノート】

ウ 家庭学習MGC

今年度から，「家庭学習 60・90 運動」から，自分にとって必要な家庭学習の内容や方法を決めて自ら取り組むことなど質を優先的に考える「家庭学習マイゴールチャレンジ」への転換もあり，家庭での学習も目標や内容，進め方を決めさせるようにした。家庭学習と授業が循環できるように，その際以下のことを提示した。(図9) 生徒にマイゴールを意識させ，家庭学習においても自己選択，自己決定する経験を積み重ねさせた。授業が家庭学習で補充されるようなサイクルを意識した。(図10)

- ・ 授業で分からなかったことを再度自分で確認する。
- ・ 授業で疑問に思ったことを調べたり，発展問題に挑戦したりする。(発展問題についてはキュービナ【学習 e ポータル+AI 型教材】問題を提示)
- ・ 授業内に自分で立てた目標を達成できなかったとき自分で調整する。



【図9 家庭学習内容】

【図10 授業との循環】

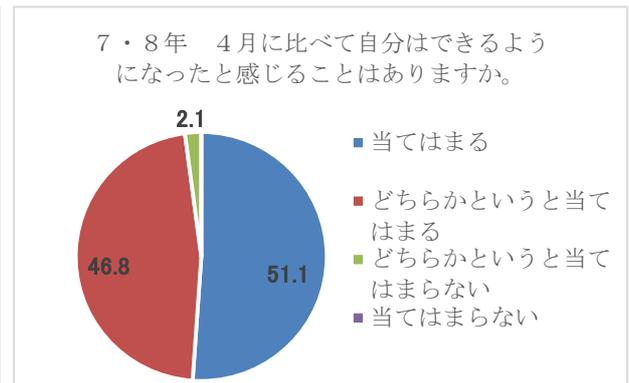
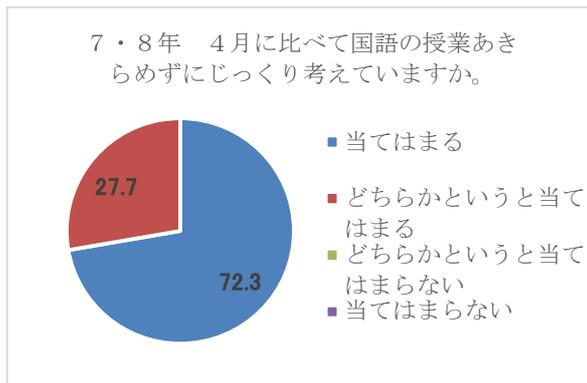
6 研究の成果と課題

(1) 成果

- ア 学んだことが単元の言語活動で生かされるようになった。例えば、意見文を書く言語活動では、客観的な事実を提示し、多角的な視点で、言葉を吟味して伝えようと、単元導入時に書けなかった生徒が書けた。(図 13) 身に付けさせたい力が発揮できた場面となった。継続的にじっくりと考えられるようになった。
- イ 授業を一律、一斉、一方向のみではなく、生徒に委ねる場面とのバランスを考えた単元計画を意識して取り入れることで生徒に変化が見られるようになった。4月にじっくり自分では考えられなかった生徒が、自己効力感やコミュニケーション力の高まりにより、友達と意見を共有し、考えを練り直すことができるようになった。自分の考えを表明することに抵抗をみせていた生徒が、いろいろな友達と考えを共有し、自分の考えを強固にしていた。
- ウ 一人一人が自分の学びの進展を意識し、家庭学習も充実するようになってきた。その日の授業で自分の目標を達成できなかった生徒が、「家でやらないと残りの時間じゃ終わらないんです。」と言った発言をして、自己調整しながら、家庭学習と授業が循環された。
- エ 生徒自ら学びに対して意欲をもっていることを自覚しているアンケート結果(2025年12月1日)にもなった。

「中学生にスマホは必要か」
 僕は中学生にスマホは必要ではないと考えます。SNSやゲームの時間が増加して睡眠不足や視力などが低下する可能性があると考えるからです。読売オンラインの記事では、スマートフォンの利用について悩みや不安を尋ねる項目では、睡眠不足や視力の低下などの健康などに關することと答えた割合が、小学生が39・6%、中学生が45%と増加したというデータがあります。この事実は、睡眠不足や視力の低下が問題視されているということを明確に示しています。もちろん、「SNSなどで友達とつながることで、共通の話題を持つ事ができる」という反論もあるでしょう。しかし、読売新聞オンラインの岡山県教育委員会が2023年度に実施したスマートフォンの利用に関する実態調査では、「1日に3時間以上使用している小・中学生の割合が増加している」と述べられています。中学生の段階では、睡眠をしっかりと、身体の発育を促すことが重要だと思えます。
 中学生は、人間にとっての基礎的な健康的な生活を作り上げ、身体の発育を促すことが大切だと考えます。

【図13 言語活動意見文】



(2) 課題

- ア 国語の学びを日常生活・社会生活・他教科に活用したいけれど、どう活用していけばよいか困り感をもつ生徒がいた。活用させる手立てを考えていく必要がある。
- イ 単元を構想するにあたって非常に時間を要している。自己研鑽も含め、更なる教材研究の必要性を感じている。
- ウ 生徒の自ら学ぶ意欲をどのような形で評価すればよいか戸惑うこともあった。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、学習評価の妥当性を高めることを研修していきたい。

7 おわりに

学びの主体である生徒一人一人が、「有能な学び手である」という原点に立ち返り、授業づくりを考え直し、実践してきた。「学習者主体の授業＝生徒の頭がぐるぐる働きっぱなし」になるために授業を構成した。生徒に学びを委ねることで生徒の個別最適な学びと、協働的な学びが往還することも実感した。今後も細かな生徒の見取りをしていき、主体的・対話的で深い学びの授業の実現に繋げていきたい。私自身の授業への姿勢が生徒の学びへの姿勢の手本だとも感じている。初任の頃から常に意識している、生徒が学びたいという気持ちに応えられる、そんな生徒と向き合い学び続ける教師でありたい。